



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

「はじめの一歩を大切に！」

今年も10月の創立記念行事に卒業生がやって来てくれました。すでにホームページでも紹介しましたが、今回来てくれた彼女は、京都文教高校の3年生です。

小学校5年生の学級が、担任の先生に反発してわざと先生を困らせるような雰囲気がありました。そのような時でも、ふつうに先生に接していた彼女もいじめにあうようになりました。そのような不登校になった経験から話してくれました。洛風との出会いや、よりよく委員や軽音部で活動した想い出なども話してくれたあと、進路のことを伝えてくれました。美術の学校を目指していたのですが、受験がうまくいかず、挫折したこと、しかし、文教高校で、デッサンなど絵を描くことに使っていた時間をほかのことに活かそうと前向きに気持ちを切り替えることができたそうです。そうした何かをやってみようというチャレンジ精神が生徒会長を経験することにも結び付いたようです。



そして、「はじめの一歩を大切に！」という言葉を後輩たちに送ってくれました。

*挫折してもそこから切り替えて、新たなスタートを踏み出し、その場で頑張っていることがすごいなと思いました。

*今日先輩に話を聞いて、私もこれから、コツコツがんばっていこうと思いました。先輩の「一歩が大事」と言うのが心にひびきました。私も初めての事や苦手な事があるけど一歩踏み出してがんばろうと思いました。

*一歩を踏み出すことは、今の僕にはむりでしょう。これから先も一歩を踏み出す力がつくともかぎりません。それでも、ぼくは、歩んでいきたいです。（たぶん）今の僕はフワフワでよくわからない状態です。でも、がんばらず歩んでいけたらいいと思います。

などの感想にあるように、後輩たちもしっかりとメッセージを受け取ってくれました。

自分の気持ちに気づき、 言葉にしていくことの大切さ

先週の「カウンセラーを囲む会」では、「自分の気持ちに気づき、言葉にしていく大切さ」をテーマに話を進めました。何かしんどいことや嫌なことがあった時、子どもによっては、「ムリ」「わからん」と、うまく言葉にできていないことがあります。場合によっては、お腹が痛くなったり、部屋に閉じこもったりと身体の反応や行動化していることもあります。このような時に、周りの大人はどう考えればよいのでしょうか。まず、言葉にするのが苦手な子もいる、男女差や成長の度合いにもよることを考えます。「ムリ」という一言でも、「しんどい最中によく言っているんだ」という気持ちで受け止め、多少子どもの思いとズレがあっても、その子のペースにじっくりと付き合ってみることが大切です。その時は、よくわからなかっても、「あの時はこんなことがしんどかったんや」と後々言葉にできたら上出来ではないでしょうか。そのように付き合っていると、子どもが、自身で気づいたことを徐々に言葉で表現できるようになっていきます。

11月20日は日曜参観です

午後のヒューマン・タイムでは、古川秀明さんによる「家族・なかま」をテーマにした講演会及びアコースティックギターのライブを行います。

すでに案内を配付しておりますので、時間割等をお確かめの上、ぜひお越しください。

次回「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」は11月30日（水）です